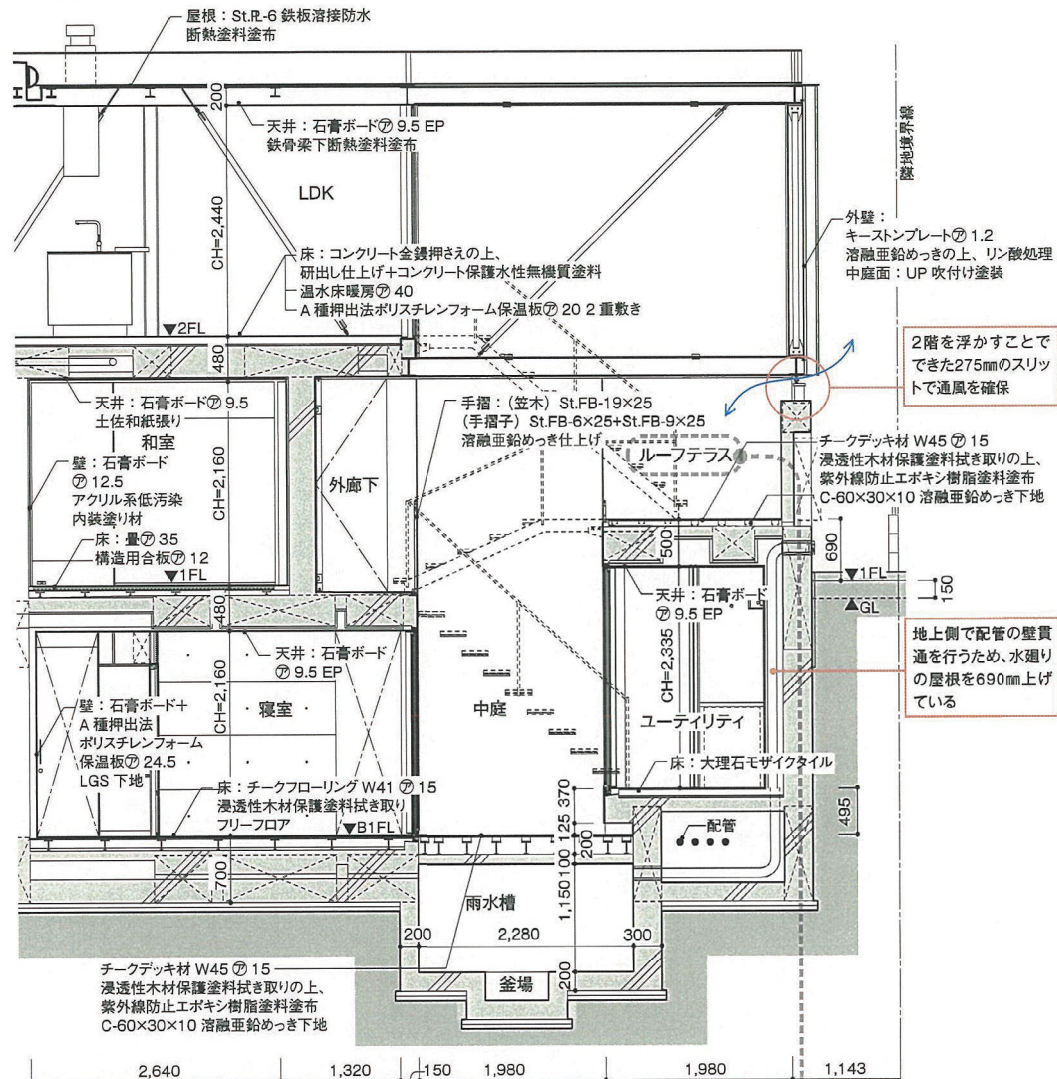


図3 | 断面図

[S=1:80]



2階を浮かすことでできた275mmのスリットで通風を確保

地上側で配管の壁貫通を行うため、水廻りの屋根を690mm上げている

図1 | 地下1階平面図

[S=1:150]

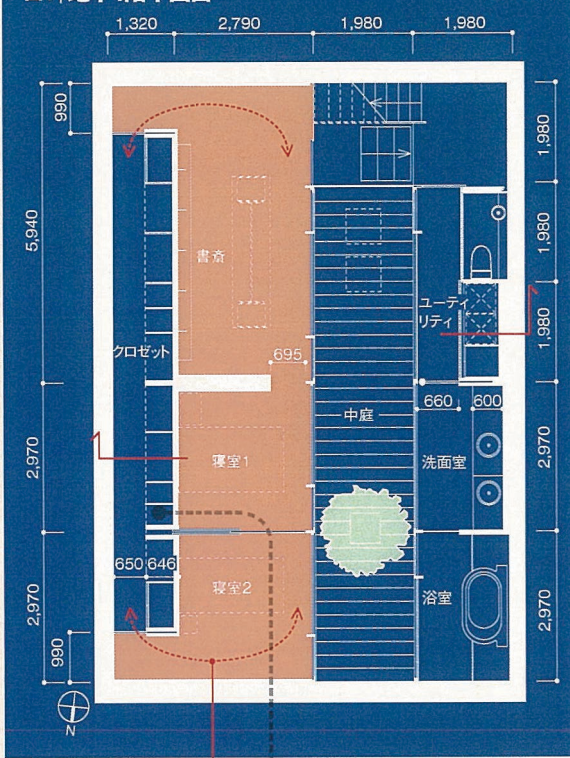
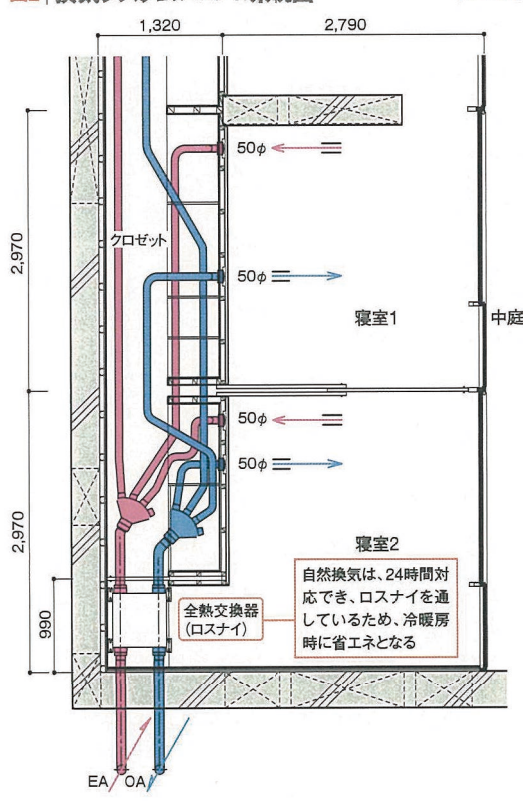


写真1 | 地階階段側から中庭を見る。左側が水廻り、右側が寝室。水廻り上部はルーフトラスのため、開放的な空間となっている

図2 | 換気システム(ロスナイ)系統図

[S=1:80]



寝室脇にクロゼットを配することで、回遊できる効率のよい動線になる。寝室の一部を可動間仕切で区画した際も、クロゼット側から出入りできて便利

排水ポンプは2台ずつ設置する

地階に中庭などを計画するには、豪雨時に隣地や前面道路から敷地内へ雨水が流れ込む可能性を考え、慎重に対処すべきである。この建物は傾斜地を造成した敷地にあり、隣地の建物の前面道路のレベルは敷地より約1.5層分低い。豪雨に見舞われても前面道路に流れる雨水は周囲の道に流れ、敷地内に流れ込む可能性は低いと判断し、地階に居室や中庭を設けることにした。

自然換気と機械換気を併用

地階の寝室、書斎などは、窓を閉めていても十分な換気ができるよう、ウォークインクロゼットの天井内に全熱交換器(ロスナイ)を設置し、居室のガラリを通じて給排気の換気を行っている(図2)。浴室など水廻りの換気や空調機の配管は地上側で壁貫通させるため、水廻り部分の建物上部を1階床レベルから700mm程度上げている(図3)。「矢板久明」

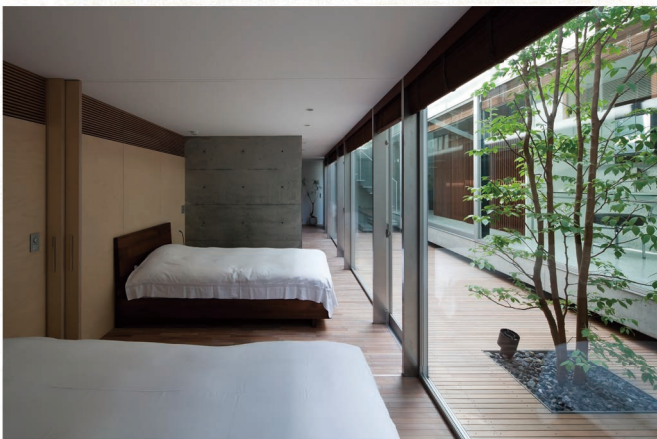


写真3 | 寝室2から寝室1方向を見る。中庭と床レベル、仕上げ材を統一しているため、中庭が身近に感じられる



写真2 | 2階階段側からルーフトラスと中庭を見る

「PATIO」設計: 矢板建築設計研究所 | 写真1: 新建築写真部 写真2-3: 小川重雄